

子どもたちの 学力向上を目指して

～令和元年度全国学力・学習状況調査の結果概要～

昨年の4月18日に全国一斉で学力・学習状況調査が行われました。

児童・生徒の学力向上には、学校はもちろん、保護者や地域の皆さんにも現状を理解してもらい、学校・家庭・地域が連携していくことが必要なことから、学力調査の結果や当町の学力向上対策の概要についてお知らせします。また、町のホームページでは、児童・生徒質問紙調査、学校質問紙調査なども掲載します。



■問合せ 教育委員会管理課学校教育グループ (☎ 74-3009)

調査の対象

町内の小学校6年生 44人(3校)

町内の中学校3年生 64人(2校)



調査の内容

○国語、算数・数学、英語(中学校)の学力調査と生活・学習習慣に関する児童・生徒質問調査、学習指導に関する学校質問調査

・昨年までのA問題(知識、技能など)、B問題(活用など)の区分をやめ、両者を一体的に出題。

・英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」調査の平均正答率であり、パソコンで実施した「話すこと」調査の結果は平均正答率集計に加えていない。



学力調査の結果

1. 各教科の平均正答率

上段は今年度の平均正答率で、下段は昨年の平均正答率です。平均正答率は、各平均正答数を設問数で割った値の百分率です。ただし、都道府県と市町村の平均正答率の%は、文部科学省方針で小数以下を表示しないこととしています。

■小学校

	国 語		算 数	
洞爺湖町	53%		55%	
	A 66%	B 48%	A 60%	B 46%
全国 (公立)	63.8%		66.6%	
	A 70.7%	B 54.7%	A 63.5%	B 51.5%
北海道 (公立)	63%		64%	
	A 70%	B 53%	A 62%	B 49%

■中学校

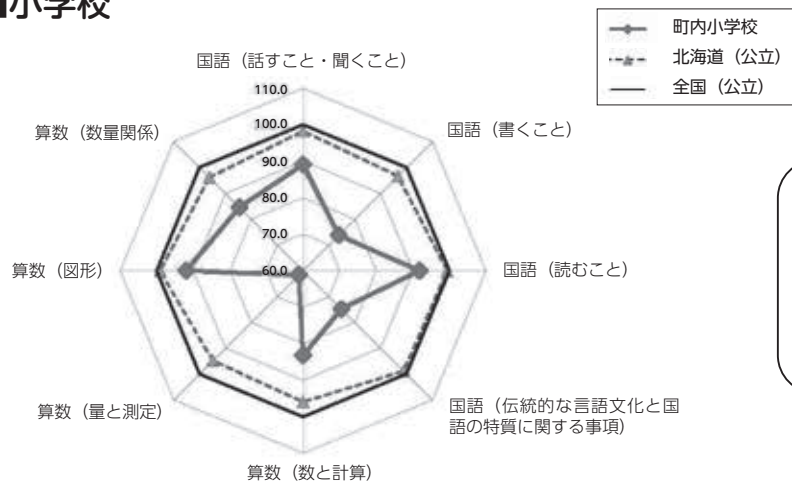
	国 語		数 学		英 語
洞爺湖町	64%		46%		48%
	A 68%	B 48%	A 49%	B 30%	
全国 (公立)	72.8%		59.8%		56%
	A 76.1%	B 61.2%	A 66.1%	B 46.9%	
北海道 (公立)	72%		58%		54%
	A 77%	B 61%	A 65%	B 46%	



2. 各教科の状況

教科の領域別に全国を 100 とした場合の全道と洞爺湖町の状況をレーダーチャートで示したものです。(洞爺湖町の平均正答率÷全国の平均正答率×100 で算出)

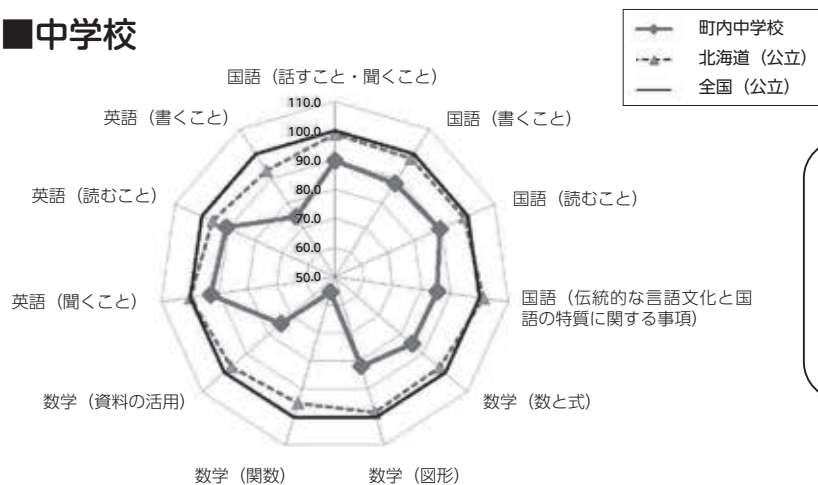
■小学校



傾向

- ・国語では、「読むこと」が全国に最も近くなっています。
- ・算数では、「図形」が全国に最も近くなっています。

■中学校



傾向

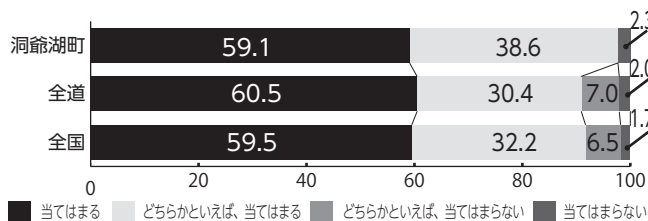
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」が全国に最も近くなっています。
- ・数学では、「数と式」が全国に最も近くなっています。
- ・英語では、「聞くこと」が全国に最も近くなっています。



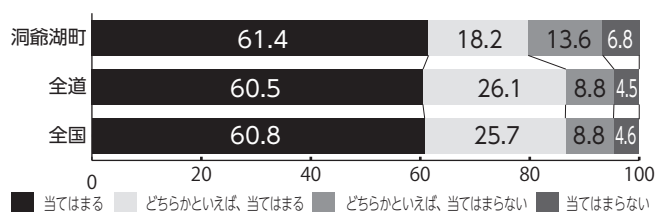
児童・生徒への質問

■小学校

Q 先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う

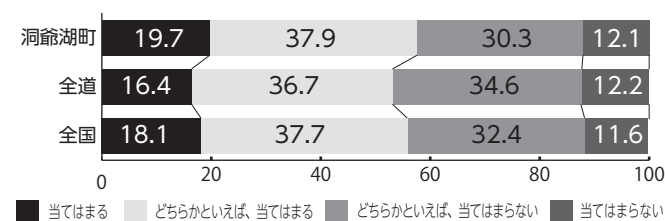


Q 授業でもっとコンピューターなどの ICT を活用したいと思う

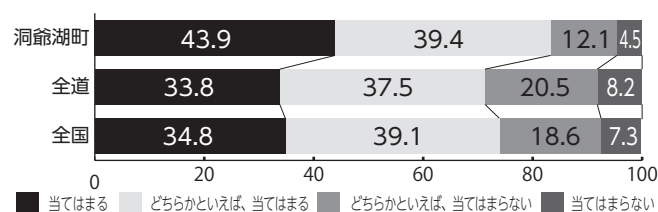


■中学校

Q 自分の考え方を発表するときは、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う



Q 数学の授業の内容はよく分かる

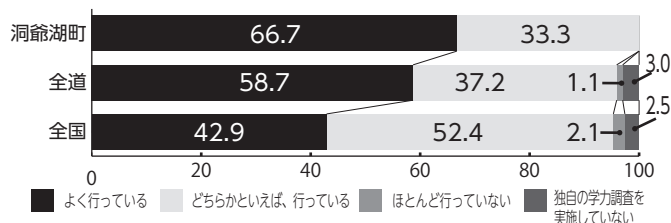




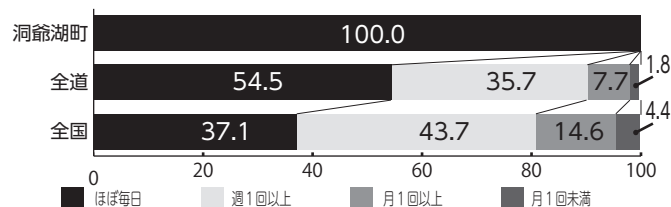
学校への質問

■小学校

Q 全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育の改善や指導計画などへの反映を行った

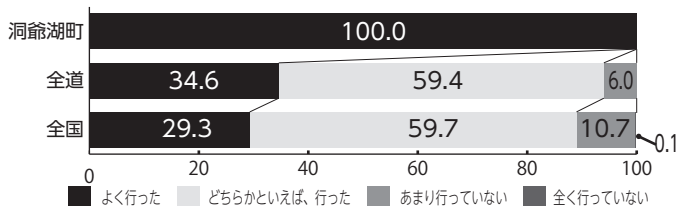


Q 教員が大型提示装置などの ICT を活用した授業を行った

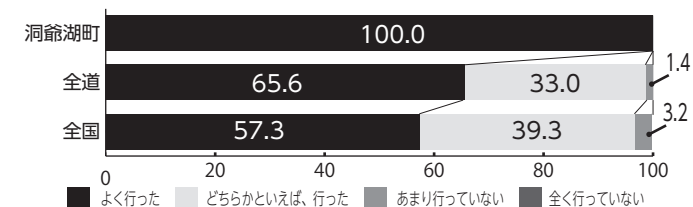


■中学校

Q 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った



Q 数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った



分析

■小学校

○児童への質問から

・「先生は、授業やテストで間違えたところや理解していないところを、分かるまで教えてくれていると思う」と回答した児童の割合が、全国とほぼ同様になっています。
・「授業でもっとコンピューターなどの ICT を活用したいと思う」と回答した児童の割合が、全国を上回っています。

○学校への質問から

・「全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画などへの反映を行った」と回答しています。
・「教員が大型提示装置などの ICT を活用した授業をほぼ毎日行った」と回答しています。



学校が、全国学力・学習状況調査の結果を独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画などへの反映を行ったことにより、児童が、先生から授業やテストで間違えたところや理解していないところを、分かるまで教えてもらえるようになり、全国に近くなった領域が見えるようになったと考えられます。

学校が、大型提示装置などの ICT を活用した授業をほぼ毎日行ったことにより、児童が授業でもっとコンピューターなどの ICT を活用したいと思うようになったと考えられます。

■中学校

○生徒への質問から

・「自分の考えを発表するときは、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」と回答した生徒の割合が、全国と全道を上回っています。
・「数学の授業の内容はよく分かる」と回答した生徒の割合が、全国を上回っています。

○学校への質問から

・全学校が「国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」と回答しています
・全学校が「数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行った」と回答しています。



学校が国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行ったことにより、生徒が自分の考えを発表するときは、考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表するようになり、国語の「話すこと・聞くこと」で全国に最も近くなったと考えられます。

学校が、数学の指導として、計算問題などの反復練習をする授業を行ったことにより、生徒は、数学の授業の内容がよく分かるようになり、数学の「数と式」で全国に最も近くなったと考えられます。



洞爺湖町の学力向上への取り組み

- ①洞爺湖町スタンダード 10 研修委員会で策定した「洞爺湖町自立的学びのためのスタンダード 10」による全町的な学力向上の取り組みの実施
- ②長期休業中や放課後の補充学習と町の放課後学習支援（地域未来塾）の実施
- ③指定事業などを活用した教職員の資質向上・授業改善のため講師招聘講演会の開催
- ④町独自の学力検査の実施
- ⑤支援員の手厚い配置
- ⑥平日、土日の家庭学習強化の取り組みの実施（PTAへの呼びかけ文書の作成など）

